

スクールワイドPBSモデル事業実践校 令和7年度方上小学校SWPBS実践報告



方上っ子キラキラプロジェクト

児童の実態

- ▶ 指示されたことは前向きに取り組む
- ▶ よりよいものを目指し進んで取り組む意欲や実践力に課題

PBSを基盤に

目 標

- ▶ 自己肯定感を高める
- ▶ 自己の課題に気づき、課題解決に向けて主体的に取り組む意欲と実践力の育成

本年度の実践課題

教員主導から児童主体の取組へ

望ましい行動の定着

全教職員で取り組むPBS

継続した取組へ

『持続可能な
SWPBSを
目指そう』

方上っ子 キラキラ プロジェクト

『持続可能なSWPBSを目指そう』

PBS推進チームを校務分掌に位置付ける。

PBS推進チームと代表委員会担当教員が連携する体制を作る。

ポジティブ行動マトリクスの望ましい行動を、既存の月目標に取り入れ、委員会活動と連動させる。

全教職員と
高学年の児童が
関わる仕組み

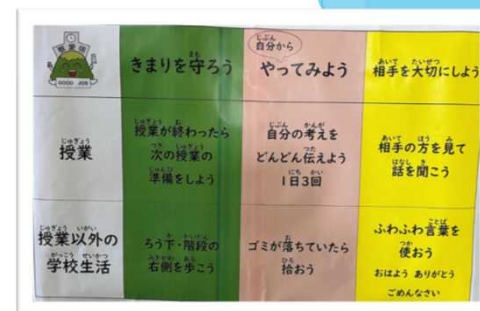
具体的な取組の流れ

①

- ・ 月目標の達成に向けて担当の委員会で取組方法について話し合う。

②

- ・ 担当委員会、代表委員会、担当教員が中心となって望ましい行動を引き出す工夫を考える。
(モデリング動画の作成、劇化、視覚支援に特化してポイントを示した掲示物の作成等)



令和7年度 月目標(案)

☆PBSで重点的に☆

	目標	担当委員会
4月	気持ちのよいあいさつをしよう	生活・いじめ防止委員会
5月	☆授業が終わったら次の準備をしよう☆ ^(花)	生活・いじめ防止委員会
6月	健康や安全に注意して過ごそう	保健委員会
7月	ろう下・階段の右側を歩こう	給食委員会
8月		
9月	☆気持ちのよいあいさつをしよう☆ ^(国定証)	生活・いじめ防止委員会
10月	時間を守って生活しよう	放送委員会
11月	☆ふわふわ言葉を使おう☆	生活・いじめ防止委員会・掲示委員会
12月	寒さに負けず元気に過ごそう	体育委員会
1月	ゴミが落ちていたら拾おう	環境・ボランティア委員会
2月	進んで仕事をしよう	図書委員会
3月	1年間のしめくりをしよう	



具体的な取組の流れ

③

- ・ 代表委員会の協力を得て事前準備を行い、取組の周知を担当委員会が児童朝会で行う。



④

- ・ P B S コーナーを全校児童がよく通る玄関フロアーに設置し、取組状況がわかるように掲示する。



⑤

- ・ 1ヶ月間、学校全体で実践に取り組み、代表委員会での振り返りの共有を児童朝会で行う。



望ましい行動を繰り返しやすい工夫

児童の頑張りを視覚化

- ・ 教員や児童自身が達成度合いを評価し、達成した割合で掲示物が増えていく仕組みをつくる。
- ・ 到達具合によりレベルアップしていく仕組みをつくる。

教師の称賛や承認のスキルアップ

- ・ 校内研修でP B S コンサルタントを講師に迎え、取り組み方の共通理解や児童の褒め方演習等を行う。望ましい行動が伝わりやすいような具体的な称賛や承認について考える。

評価を個人レベルで展開

- ・ 個人カードを配布し、個別にフィードバックできることで意欲を高める。
- ・ 認定シールを贈呈することで意識の持続を図る。



実践事例① 9月目標 「気持ちの良いあいさつをしよう」



PBS推進チームとPBSコンサルタントで、取組の方向性について協議、共有をする。

9月の月目標 気持ちのよいあいさつをしよう

2025.6.30 PBSメンバーの話し合いから

■週2回（火・木）あいさつデーにしよう

■なかよし班で7:45～8:00まで、玄関に立つ。

9/ 2(火)⇒赤(堀河・平野) 9/ 4(木)⇒緑(上田) 9/ 9(火)⇒青(川原)
9/11(木)⇒オレンジ(佐々木・内藤) 9/16(火)⇒白(富永) 9/18(木)⇒黄(河野)
9/25(木)⇒ピンク(熊山) 9/30(火)⇒水色(寺上・福田)

■紙の台紙の色は水色⇒オレンジ⇒赤⇒青⇒紫

■あいさつができている児童個人に、フィードバックをする認定証をつくる。シールを貼る。

・週2回のあいさつデーの朝の会で、児童が自己評価をする。黄色シール

「おはよう」の言葉 1回 ⇒黄色シール1枚

「おはよう」の言葉 合計3回 ⇒黄色シール2枚

「おはよう」の言葉 合計5回以上⇒黄色シール3枚

・朝、玄関に立った子に挨拶シールを贈呈 金色シール

・先生が、素晴らしいあいさつをしている!と思った時にボーナスシール贈呈(あいさつデーの日に) 金色シールを贈呈する。

■委員会で話し合い、朝会のときに伝えてもらうこと

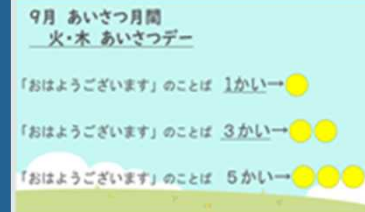
・何で挨拶をした方がいいのか メリット…気持ちがいい、社会に出たとき先輩に挨拶することの大切さなど

■あいさつカードは、終わったらどうするのか。A4の紙に貼って保管?…総合・生活科ファイルに入れる?

⇒あいさつカードを貼る台紙を作成

望ましい行動を引き出す工夫

- ・ 児童によるモデリング動画の作成と呼びかけ
- ・ 児童朝会で取組内容を共有
- ・ 「あいさつデー」（火・木）に異学年グループのなかよし班（既存の取組）によるあいさつ運動
- ・ 自己評価基準の視覚化



実践事例①

【望ましい行動】
気持ちの良いあいさつをしよう

児童の変容

- ・ あいさつの声が大きくなったり、
進んであいさつするようになったりした。
- ・ あいさつの返ってくる割合が増えた。

実施前：約 7 割→実施後：約 9 割以上

- ・ 全員があいさつデーに参加する機会を設けることで、
児童があいさつを交わすことのよさを実感していた。
- ・ あいさつデーに自主的に参加する児童の姿が見られた。



繰り返しやすい工夫

- ①個別にフィードバックできる
個人のあいさつへの取組に対しフィードバックするオリジナル認定証を作成し配布する。（教員からもシール贈呈でポジティブなフィードバック）
- ②レベルアップできる
評価に応じた数のシールを認定証に貼り、あいさつシールの枚数でレベルアップする仕組みにする。
- ③取組状況がわかる
「今どこシール」を貼り、児童がどの段階にいるのかがわかる掲示にする。
⇒達成人数を校内放送で周知
- ④意識が継続できる
５段階あがったら、認定証シールを名札に貼る。

実践事例①



9月 代表委員会だより

[illegible]

代表委員会での話し合い

次の月でもできるようにするにはどうすればいいか

朝げんかんに立ってなかよし班
ごとにあいさつ運動をする
(一ヶ月に二回)

各学年で振り返り、代表委員会で
継続方法を話し合い、朝会で共有

【望ましい行動】
気持ちの良いあいさつをしよう

成功のポイント

児童を主体とした取組への働きかけが、目標の意識化と実践意欲に繋がった。

個別評価の仕組みにより、個人の頑張りが視覚化され、意欲が高まった。

教職員が個別に児童を褒める機会が増え、
児童の自信に繋がった。

取組についてチームで話し合い、全教職員が
意義を共有し、協力して取り組んだ。

実践事例②

方上っ子 キラキラ プロジェクト 11月の月目標『ふわふわ言葉をつかおう』

望ましい行動を【引き出す工夫】

- ・児童が、朝会で全校児童に取組をモデリング劇で呼びかけ
- ・各クラスでどんなふわふわ言葉があるか考え、掲示

【引き出す工夫の写真】



ふわふわ言葉の掲示

ポイントを視覚化

【児童の望ましい行動】

ふわふわ言葉をつかおう

【児童の変容】

- ・ふわふわ言葉を意識して使うようになり、使う児童の数も増えた。
- ・言い合いやトラブルが減り、クラスの雰囲気よくなったと児童が実感していた。
- ・よいところだけでなく、友達の優しさに目を向ける様子が見られるようになった。ふわふわ言葉を使った称賛が聞かれた。



【繰り返しやすい工夫】

- ・毎週水曜日和金曜日の帰りの会で「ふわふわ言葉が使えているか振り返る
クラスの30%以上→四つ葉のクローバー 1つ
クラスの50%以上→四つ葉のクローバー 2つ
クラスの80%以上→四つ葉のクローバー 3つ
- ・放課後、校内全体掲示（ハート）に獲得したクローバーを貼る。
→ハートが満たされていく。
- ・取組後、各クラスで振り返り、代表委員会で今後の継続に向けての改善策を話し合い、朝会で共有
- ・教員によるふわふわ言葉を使うことに対する個人への賞賛

【繰り返しやすい工夫の写真】



獲得したクローバーを貼っていき、ハートを満たしていく。



代表委員会だより

【成功のポイント】

- ・児童が考えたふわふわ言葉を、常時掲示したことで、意識することができ使っていこうという意欲を高めることができた。
- ・クラス別ではなく、全体でハートを満たしていくようにしたことが、学校全体でふわふわ言葉を広げていく雰囲気作りに繋がった。
- ・11月を人権月間とし、他の教育活動と連携できるように取組について考え、意見を出し合い、協力して取り組んだ。

【取組の継続性】

- ・「ふわふわ言葉を使おう」について代表委員会で振り返りをすると、ふわふわ言葉を増やす取組がもっとできたらいいという意見が出る。
⇒「ありがとう」に絞って個人評価カード（レベルアップ）を用いて継続に。



実践①
気持ちの良いあいさつをしよう

- ▶ 児童から、あいさつ運動継続の要望があがる。



月2回のあいさつデーに、なかよし班＋あいさつボランティアによるあいさつ運動を3月まで実施へ

実践②
ふわふわ言葉をつかおう

- ▶ 児童からふわふわ言葉を増やす取組が、もっとできたらいいという意見が出た。



ふわふわ言葉の「ありがとう」をもっと増やすために「ありがとうカード」で再取組

取組の継続化

児童の主体的に取り組む意欲を引き出すことができた

成果と課題

PBS推進チームを校務分掌に位置付ける。

- 具体的な取組内容に、低・中・高学年の実態を反映させることができた。
- チームで取組内容について検討や準備をするようになり、内容の充実や推進リーダーの負担軽減につながった。

PBS推進チームと代表委員会担当教員が連携する体制を作る。

- 推進チームの教員だけでなく、各月の担当委員会の教員とともに企画・準備に取り組むようになった。
- 取組に児童の意見を反映させることができた。
- 全教職員が自分事として直接的に実践に取り組むことができた。自主的に教育活動にPBSを取り入れる様子も見られた。
- 定期的に開かれる代表委員会と連携させたことで、目標への取組のサイクルができた。
- 代表委員会での振り返りやフィードバックにより、全校で取組に対する共通認識を図ることができた。

成 果

ポジティブ行動マトリクスの望ましい行動を、既存の月目標に取り入れ、委員会活動と連動させる。

- ・ 月目標にマトリクスの行動目標を取り入れたことで、目標が絞られ、学校全体で取り組みやすくなった。
- ・ 月目標以外でも、自分たちの生活課題に対し、PBSを基盤とした取組が各委員会で実践され、活動の活性化につながった。
- ・ 委員会活動と連動させることで、取組方法を児童が考えたり準備したりするようになり、自分たちの課題として自主的に取り組もうとする意欲や実践力が高まった。（振り返りの時に、引き続き取り組みたいという意見が出されるようになった。）
- ・ 代表委員会を中心とした毎月の取組の流れが定着し、児童主体の振り返りやフィードバックが行えるようになった。

成 果

その他

- ・ 教員が標的行動について継続的、意識的に褒めるようになり、児童の意欲と自己肯定感を高めることにつながった。
- ・ P B S コーナーを全校児童がよく通る玄関フロアーに設置し、月目標への取組状況がわかるように掲示することで、取組への意識を継続させることができた。
- ・ 各月の目標への取組により、児童の望ましい行動が増えた。
- ・ 振り返りの際には、取組の継続や方法への要望が児童から出されるようになり、学校を自分たちでよくしていこうとする姿勢が見られるようになった。

課 題

- ・ 持続可能なPBSを目指した仕組みを次年度以降も継続し、定着させること

【方策】 組織体制（チーム）の継続

- ・ 取組への意欲の持続と児童主体の取組へ移行していくこと

【方策】 マトリクスの児童による見直し・改善、継続策のアイデア募集
なかよし班活動との更なる連動

- ・ 各取組の継続化

【方策】 各教育活動との連動

（人権教育・生徒指導等）



方上小学校 SWPBS 実践報告

ご清聴ありがとうございました。

